

報道関係者各位

一般社団法人東京ビエンナーレ

【御取材のお願い】東京の地場に発する国際芸術祭 東京ビエンナーレ 2023
総合ディレクター及び開催テーマの発表

TOKYO BIENNALE 2023

この度、一般社団法人東京ビエンナーレは、『東京の地場に発する国際芸術祭 東京ビエンナーレ 2023』を2023年7月から10月にかけて開催いたします。

本芸術祭は、2022年10月5日（水）の記者会見によって公式発表され、準備が本格化いたします。また、先行して2022年10月から「東京ビエンナーレ 2023 はじまり展」を都内複数会場で開催します。

昨年、第1回目となる東京ビエンナーレ 2020/2021 はコロナ禍の困難をこえて開催されました。今回はその経験も踏まえ、第2回目の開催に向けて、私たちが求める芸術祭のあり方について議論を重ねてきました。そしてこの度、新たなテーマを掲げて準備を開始します。

本リリースでは、東京ビエンナーレ 2023 についての現在の構想、テーマ、概要をお知らせいたします。

《概要》

名称	東京の地場に発する国際芸術祭 東京ビエンナーレ 2023
テーマ	リンケージ つながりをつくる
会期	2023年7～9月 夏会期（プロセス公開期間） 2023年10月 秋会期（成果展示・本会期）
主催	一般社団法人東京ビエンナーレ

■東京ビエンナーレ 2023 実施体制について

第 1 回目に共同総合ディレクターを務めた小池一子（クリエイティブディレクター）に代わり、西原珉（キュレーター）を新たに共同総合ディレクターに迎えて始動しました。

この他、前回から継続する関係者および、新たに加わった主要ディレクター陣をご紹介します。

総合ディレクター	中村政人、西原珉	
プロジェクトプロデューサー	中西 忍	
プロジェクトディレクター	岩間 賢、小池一子、宮本武典	
クリエイティブディレクター	佐藤直樹	
コミュニケーションディレクター	並河 進	
PR ディレクター	若林直子	
メディアリエゾン	今田素子	
WEB ディレクター	根子敬生	
エディトリアルディレクター	内田伸一	
事務局長	穴戸遊美	
プロジェクトマネージャー	森田裕子	
コーディネーター	川上智子、佐藤華林	※2022 年 10 月 1 日現在

《東京ビエンナーレ 2023 総合ディレクタープロフィール》

中村政人（なかむら・まさと）

アーティスト。東京藝術大学絵画科教授。3331 Arts Chiyoda 統括ディレクター。東京ビエンナーレ 2020/2021 総合ディレクター。アートを紹介してコミュニティと産業を繋げ、文化や社会を更新する都市創造のしくみをつくる社会派アーティスト。第 49 回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表。平成 22 年度芸術選奨受賞。2018 年日本建築学会文化賞受賞。1997 年よりアート活動集団「コマンド N」を主宰。全国で地域再生型アートプロジェクトを展開。東京ビエンナーレ 2020/2021 では小池一子（クリエイティブディレクター）と共に総合ディレクターを務めた。



西原珉（にしはら・みん）

キュレーション、心理療法士。90 年代の現代美術シーンで活動後、渡米。ロサンゼルスでソーシャルワーカー兼臨床心理療法士として働く。心理療法を行うほか、シニア施設、DV シェルターなどでアートプロジェクトを実施。2018 年日本に戻ってアートとレジリエンスに関わる活動を試行中。現在、秋田公立美術大学教授。米国カリフォルニア州臨床心理療法士免許。東京ビエンナーレ 2020/2021 では参加作家として「トナリプロジェクト」を推進し、東京ビエンナーレ 2023 においても継続した活動を展開する。



■東京ビエンナーレ 2023 ステイトメント

1993年、銀座でゲリラ的にアートプロジェクトを行った時のことである。私は、8丁目の裏路地の路肩に、無垢の鉄の彫刻をそっとおいた。高さ50cmくらいでとても一人で持ち上げることは難しい重さである。路肩空間の寛容性を読み解き狙いを定め設置した。しかし、いざ置いてみると、移動・撤去されることに対して不安になり、作品を標識のポールに鎖でつないだ。何気ない路肩がかなりの緊張感ある場に変容した。極めてプライベートなものをパブリックな空間に置くことで、その両者の関係を探りたかった。

今だから思えることだが、個人的行為がパブリックな空間でしっかりと受け入れられるためには、多くのつながりをつくらなくてはならない。歩道管理行政の許可、近隣のビル管理者、商店街、町会などの意向確認、災害時などの安全管理対策、設置対策予算の捻出、土地の歴史性や認知度等、多くの関係機関との交渉や配慮をなくてはならない。これらの関係を気にせずに、一人でゲリラ的に置くこともできるが、もし街の多くの関係性を調整しつながりをつくれれば、法規的にも問題ないように設置することができる。当時は後者の関係が全く見えていなかったからか、かえって大胆な行動ができたのかもしれない。*

一つの作品をめぐる起きたささやかな緊張が、街という公共の場所で新たな価値観になるということは、目先のつながりだけではなく、その街の全体的な関係性を見だし、それらとつながり、変えていくことを意味します。街に現れた「個」の存在が、それまでとは異なる見え方や出来事としてとらえられていく——さらに、見えにくいつながりをたぐり寄せるように紐解き新しい関係をつくっていくことは、「個」のあり方を変え、社会的に確かなものとして信頼を得ることになるでしょう。

2回目となる東京ビエンナーレ 2023 は、「リンケージ つながりをつくる」がテーマです。リンケージとは、人間関係だけではなく、場所、時間、人、生物、植物、できごと、モノ、情報などあらゆる存在が複雑に関係しながら、刻々と変容していく世界に生きているからこそ見いだされていく「関係性＝つながり」です。

現在のアートの社会的役割の一つは、コロナ禍における社会環境の変化に対して自由な視点で関係性を持つることにあるのではないかと。東京ビエンナーレ 2023 は、そんなアートの「つながる力」への信頼に基づいて、アーティストと、企業と、地域と、参加者、来場者がそれぞれを取り巻く「リンケージ（つながり）」に気づき、それらに加わる新しいつながりをつくり出す場となっていきます。

そして、アートを通じて連環するリンケージが、江戸東京の基層文化と地場の形成プロセスに光をあて、東京ビエンナーレが次の100年後まで続くつながりをつくる活動の礎になることを目指します。

総合ディレクター 中村政人 西原珉

* The Ginbrart 展をめぐる西原珉との対話より、中村政人の発言（2022年）

■リンケージとは

東京ビエンナーレ 2023「リンケージ つながりをつくる」は、私たちと私たちのまわりの「リンケージ（つながり）」をとらえることをテーマとします。場所、時間、人、生物、植物、できごと、モノ、情報——私たちは、あらゆる存在が複雑に関係しながら、刻々と変容していく世界に生きています。なかでも、ここ東京は、非常に緻密な関係性によって織り上げられた社会だと言えるでしょう。東京の歴史、文化、地域と、またそれを支えている人たちと、新しくつながるには？ 新しいつながりをつくるには？ つながりを強くしたり、深めたりするには？ 現在のアートの社会的役割の一つは、社会環境に対して自由な視点で関係性を持つることにあるかもしれません。東京ビエンナーレ 2023 は、そんなアートのつながり力をもとに、参加者、来場者がそれぞれの「リンケージ（つながり）」を見だし、さらに新しいつながりが生まれ、広がっていく場となることを目指します。

■東京ビエンナーレ 2023 をより深く知る「はじまり展」とスペシャルイベントのご紹介

東京ビエンナーレ 2023 は市民参加型の継続的な取り組みのために、2022 年から各所で活動を始めます。「東京ビエンナーレ 2023 はじまり展」はその起点となる催しです。舞台となるのは、2025 年に創建 400 年を迎える東叡山 寛永寺や、都市型総合エンターテインメント施設・東京ドームシティ、戦前から改修を経て現代も残る看板建築・優美堂など、いずれも固有の背景と可能性をもつ場です。地域社会や地元企業、多様な参加者らと共に展開される、「つながり」の「はじまり」にぜひお立ち会いください。また「東京ビエンナーレ 2023 はじまり展」会期中には関連イベントとして、シンポジウムとトークセッションを開催します。新たに掲げられたテーマ「リンケージ つながりをつくる」をより深く理解することができる機会となります。ぜひ会場にてご参加ください（両イベントともにライブ配信は致しません）。

《開催概要》

[タイトル] 東京の地場に発する国際芸術祭 東京ビエンナーレ 2023

東京ビエンナーレ 2023 はじまり展

[会 期] 2022 年 10 月 6 日（木）～10 月 30 日（日）※メイン期間

[会 場] 東叡山 寛永寺、東京ドームシティ、優美堂ほか

[休場日] 寛永寺会場：月～水曜日（祝日は開場）優美堂会場：水曜日

[時 間] 寛永寺会場：10:30-16:30（入場は 16:00 まで）※根本中堂は 15:30 最終入場、16:00 閉場

東京ドームシティ会場：終日公開（夜間 1:30-4:30 は立入不可）

優美堂会場：11:30-18:00（木・金・土は 20:00 まで）

[料 金] 入場無料（一部、有料イベントあり）

[主 催] 一般社団法人東京ビエンナーレ

[後 援] 千代田区、中央区、文京区、台東区、一般社団法人千代田区観光協会

一般社団法人中央区観光協会、一般社団法人文京区観光協会、東京藝術大学

[協 力] 東叡山 寛永寺、アーツ千代田 3331 ほか

[助 成] 令和 4 年度日本博イノベーション型プロジェクト（独立行政法人日本芸術文化振興会／文化庁）

[WEB サイト] <https://tokyobiennale.jp/>

【シンポジウム】 批評とメディアの実践プロジェクト[Relations]主宰

「都市型国際芸術祭はどこに向かうのか？～ポストコロナ、アートの変容、そして新しい関係性～」

転機を迎えた都市型国際芸術祭の未来を、日本の現代美術や地域型国際展の研究者を迎えて議論します。

国際芸術祭が、ここに来て大きな転機を迎えています。21世紀に入って、ビエンナーレやトリエンナーレと呼ばれる国際芸術祭は、地域活性化やアート・ツーリズムと結びついて世界中で広がってきました。けれども、2020年代に入って重大な岐路に立っています。新型コロナウイルスの感染拡大が観光産業にダメージを与える一方で、グローバル化や新しいメディアテクノロジーの発達の中でこれまで芸術と呼ばれていた領域が大きく変容しています。こうした中で国際芸術祭はどこへ向かうのでしょうか。



日本現代美術の美学研究者で、積極的に日本人アーティストのインタビュー調査や国際芸術祭の調査に取り組んでいるクレリア・ゼルニック（パリ国立高等芸術大学教授）、日本の地域型国際展覧会の研究者で、ワークショップやシンポジウムを日本やヨーロッパで組織してきたグンヒルド・ボーグリーン（コペンハーゲン大学准教授）を迎え、東京ビエンナーレ 2023 共同総合ディレクターの西原珉も加わり、都市型国際芸術祭の未来を論じます。

RELATIONS WEB サイト <https://relations-tokyo.com/>

[登壇者] クレリア・ゼルニック（パリ国立高等芸術大学・教授・美学）、グンヒルド・ボーグリーン（コペンハーゲン大学・准教授・美術史／視覚文化論）、西原珉（東京ビエンナーレ 2023 共同総合ディレクター）

[司会] 毛利嘉孝（東京藝術大学・教授・社会学／文化研究）

[日時] 10月15日（土）14:00-16:00

[会場] 寛永寺 大書院

[料金] 1,000円（要予約）

[定員] 40名

※批評とメディアの実践プロジェクト[Relations]とは

新しい時代の新しいアートの形式をめぐる批評とメディアの実践の試みです。それは、アートを中心としながらも、アートとその隣接領域、社会や経済、政治や科学テクノロジーの「関係性」を探るものです。それは「東京ビエンナーレ」の一部をなしつつも、「東京ビエンナーレ」やそれに関連するプロジェクトを批判的に検証しつつ、新しいアートのあり方を模索する試みなのです。

【トークセッション】

東京ビエンナーレ 2023 の構想を多様な作家・企画者陣が語ります。

[登壇予定者] 一力昭圭、小池一子、鈴木理策、Slow Art Collective、高橋臨太郎、中村政人、並河進、
西原珉、西村雄輔、宮本武典ほか ※五十音順

[日時] 10月16日(日) 13:30-16:30

[会場] 寛永寺内 計画展示会場付近 ※雨天時は寛永寺 小書院

[料金] 無料(要予約)

[定員] 30名

*各イベントのご予約は以下からお願いいたします。

トークセッション <https://artsticker.app/events/1726>



シンポジウム <https://artsticker.app/events/1727>



*上記イベントは東京ビエンナーレのウェブサイトでもご案内しています。また関連企画として、東京各所をコンダクター(案内人)とめぐるテーマ別のツアー企画も予定しております。

東京ビエンナーレ ウェブサイト

<https://tokyobiennale.jp/>